

街のかかりつけドクター 2020

眼瞼下垂とまぶたが垂れ下がり、目が十分開きにくい状態のことです。生まれつきまぶたが下がっている先天性眼瞼下垂と、日を追うごとにだんだんとまぶたが下がってくるような後天性眼瞼下垂があります。

後天性眼瞼下垂の多くは、まぶたの皮膚のたるみを伴い、まぶたの支持組織(瞼板)というコラーゲンのかたまりとまぶたを持ち上げる筋肉の接着部分(筋腱膜)が弱まると、筋肉の動きがストレートに伝わらなくなるために起こります。

眼瞼下垂は、長時間のパソコン、スマートフォンの使用などで、目を酷使する人や、コンタクトレンズの長期使用、アトピー性皮膚

さまざまな症状

眼瞼下垂を放置すると徐々に視野が狭くなり、視力が落ち、日常生活に不便が生じます。またが下がってると知らず知らずのうちに、あごを上げて視界を得ようとする動きが起ります。さらに額の筋肉を過度に収縮させ、まゆ毛を上方へ引き上げることで目を開けるクセがついてくるため、額に深いしわが刻まれ、目

眼瞼下垂のセルフチェック

- まぶたが重く感じる。
 - 目が開けにくく、年齢とともに小さくなってきた。
 - 眠たそうな顔をしていると言われる。
 - 頭痛や肩こりがある。
 - 上まぶたのくぼみが出てきた。
 - 額に深いしわができる。
 - タ方になると目の奥や額に痛みを感じる。
 - 右記の内3項目以上に当てはまる方は、眼瞼下垂の疑いがあります。

教えて ドクター

医療法人 藻友会
いしやま形成外科クリニック
石山 誠一郎 院長



日本形成外科学会認定形成外科専門医。北海道大学形成外科客員臨床講師

る老人様顔貌(老け顔)となつて
いきます。また、額の筋肉は頭頂
部から後頭部、後頸部、肩へと続
く筋肉と連動しているため、これ
らの筋肉の緊張が強くなること

眼瞼下垂の治療

治療は局所麻酔での手術が必要です。まぶたの皮膚のたるみやまぶたを擧げる筋肉の機能の程度状態によって、垂れ下がった余分な皮膚と皮下組織などを切除する手術(眼瞼余剥皮膚切除)や、腱膜を本末あるべき正しい瞼板の位置に固定し直す手術(拳筋前転法)などを行います。術後はまぶたの腫れや皮下出血などが生じるケースもあり、数日程度の入院治療をお勧めしています。

眼瞼下垂の手術はまぶたの開けやすさや、十分な視野の獲得などの機能改善が目的となります。が目の開き貞含や二重まぶたの位置・左右対称性などわずかな変化がその人の顔の印象を大きく変える場合があります。まぶたを開きすぎてしまうと、びっくりしたような顔(驚愕の表情)になったり、目つきがキツくなったりする方も多いため、手術に際しては機能面のみならず、整容面のバランスにも十分な配慮が必要となります。眼瞼下垂でお困りの方は、ぜひお近くの形成外科へご相談ください。